

## Functional- $\pi$ 14 への参加報告

理学研究科物質理学専攻（化学系）

博士前期課程 2年 坂井美佳

【渡航先】 ベルリン，ドイツ

【渡航期間】 2019年6月2日から6月7日

【渡航目的】

国際学会「14<sup>th</sup> International Symposium on Functional  $\pi$ -Electron Systems」に参加する。著名な先生方の講演を聞き、 $\pi$ 電子系化合物を中心とした構造有機化学・材料科学に関する知識を修得する。また、自身の研究成果を英語でのポスター発表にて報告する。多数の学会参加者と議論を行うことで、知識を共有するとともに、自身の研究をより推進するための手がかりを得る。

【概要】

本学会は1989年に日本で機能性有機色素に関する国際シンポジウムとしてスタートした。現在は有機発光材料、有機電子材料を中心に、幅広く機能性 $\pi$ 電子系システムを扱う国際学会である。5日間の学会期間中、朝から夕方まで3つのセッションに分かれた多くの講演があった。ポスターセッションでは、和気藹々とした雰囲気の中2日間で300件以上の発表があり、様々な国の研究者間で、研究に関わる活発な議論と交流が展開された。

【所感】

世界の様々な研究者の多くの講演を聞いた。材料の機能性(数値)を追求するより応用的な研究は普段とは少し分野が異なるため、新規性や戦略の理解が難しい部分もあった。そんな中でも印象に残った講演では、独自の分子骨格を用いた研究が展開されており、今後自分自身の研究でも、オリジナリティーのある分子骨格を伴う機能性の提案を目指したいと感じた。ポスター発表では、予想以上に多くの海外の先生、学生の方と交流をすることができた。私自身が発表した化合物の光物性に興味をもってもらうことができ嬉しく思う。相手から投げかけられた質問やコメントに回答するという会話の流れの中では英語でのやりとりも問題なく楽しめたが、自らの研究を語る、面白さをアピールするといった観点では力不足を痛感した。日常から英語での議論、交流を意識し、化学を英語で伝えられる力を高めたいと思う。

日本からの参加者も多く、学会時間外には食事をもとにし、ドイツ観光も楽しむことで、他大学の先生、学生と新たな繋がりをもつことができたのも有意義であった。

最後に、このような機会をいただいた「名古屋大学卓越大学院プログラム:トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム」に感謝いたします。

